

【企業動向調査（製造業）概況】

2024年1月～3月期の企業動向調査（市内製造業94社）を行った結果、業況判断指数D Iの平均は▲34.5ポイントとなりました。

前期調査結果（2023年10月～12月期：▲1.8ポイント）と比較して32.7ポイント悪化しました。その他経営上の問題については、「原材料価格の上昇は止まらず、製品価格への転嫁も間に合わない。」、「大手の業績好調とは真逆で一向に景気が良くならず、売り上げ利益共に減ってしまい賃上げに踏み切れない。原材料高騰や賃金upに伴う思い切った価格転嫁も必要だが簡単ではない。」、「半導体関連の回復が遅延している。」などの意見がありました。

- 今期調査結果は、「食品」は0ポイント、「金属」、「一般機械」、「電気機械」、「木材家具」、「その他業種」、はマイナスポイントとなりました。

業種別の業況判断前期比D I

食品	0.0	(前期比：マイナス	60.0)
金属	▲ 53.8	(前期比：マイナス	53.8)
一般機械	▲ 25.0	(前期比：プラス	5.8)
電気機械	▲ 40.0	(前期比：マイナス	28.9)
木材家具	▲ 40.0	(前期比：マイナス	23.4)
その他業種	▲ 33.4	(前期比：マイナス	55.6)

- 次期予想D I（2024年4月～6月）

次期予想の平均は▲1.7ポイントで、今期調査結果の平均(▲34.5)より、32.8ポイント上回る予想となりました。

業種別の次期予想D I

食品	28.6	(今期比：プラス	28.6)
金属	0.0	(今期比：プラス	53.8)
一般機械	▲ 8.3	(今期比：プラス	16.7)
電気機械	▲ 10.0	(今期比：プラス	30.0)
木材家具	▲ 40.0	(今期比：プラスマイナス	0.0)
その他業種	8.4	(今期比：プラス	41.8)

- 経営上の主な問題点

「原材料・仕入品単価の上昇」が67.8%、「受注の減少」が54.2%、「人材不足（技術者等質的なもの）」が49.2%、「労働力不足（量的なもの）」が22.0%、「同業他社との競争激化」が20.3%、「技術力の不足」が11.9%、「製品販売価格の低下」と「納期の短縮」が10.2%、「為替相場の変動」が8.5%、「人員過剰」と「金融難」が5.1%、「取引先の海外シフト化」が0.0%となっております。

企 業 動 向 調 査

【2024年1月～3月期<1期>】

【調査概要】

須坂市産業振興部産業連携開発課では、市内製造業の景気動向を探る手段として、年4回市内企業を対象にアンケート調査を実施しており、今回は2024年1月～3月期<1期>の業況について調査した。

【調査実施要領】

実施時期 2024年5月

対象企業 須坂市内または事業所を有する製造業企業 94社

回答企業数 59社 (回答率 62.7%)

【調査結果】

自社業況判断 (D I = 好転－悪化)

前期比：「好転」12.1% (前回18.2%)、「悪化」46.6% (前回20.0%) という割合でD Iは▲34.5となり、32.7ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」18.6% (前回16.4%)、「悪化」44.1% (前回38.2%) という割合でD Iは▲25.5となり、3.7ポイント悪化した。

次期予想：「好転」18.6%、「悪化」20.3%という割合でD Iは▲1.7 (前回▲23.7)となり、前期より好転を予想している。

受注引合 (D I = 増加－減少)

前期比：「増加」12.1% (前回20.0%)、「減少」44.8% (前回23.6%) という割合でD Iは▲32.7となり、29.1ポイント減少した。

前年同期比：「増加」20.3% (前回16.4%)、「減少」44.1% (前回36.4%) という割合でD Iは▲23.8となり、3.8ポイント減少した。

次期予想：「増加」15.3%、「減少」23.7%という割合でD Iは▲8.4 (前回▲23.6)となり前期より増加を予想している。

生産量 (D I = 増加－減少)

前期比：「増加」13.8% (前回18.2%)、「減少」43.1% (前回27.3%) という割合でD Iは▲29.3となり、20.2ポイント減少した。

前年同期比：「増加」19.0% (前回14.5%)、「減少」41.4% (前回38.2%) という割合でD Iは▲22.4となり、1.3ポイント増加した。

次期予想：「増加」18.6%、「減少」22.0%という割合でD Iは▲3.4 (前回▲23.7)となり、前期より増加を予想している。

原材料・仕入品単価 (D I = 低下ー上昇)

前 期 比:「低下」1.8% (前回 0.0%)、「上昇」50.9% (前回 29.6%) という割合で
D I は▲ 49.1 となり、19.5 ポイント上昇した。
前年同期比:「低下」3.4% (前回 1.9%)、「上昇」67.2% (前回 63.0%) という割合で
D I は▲ 63.8 となり、2.7 ポイント上昇した。
次期 予想:「低下」1.7%、「上昇」63.8% という割合で D I は▲ 62.1 (前回▲ 34.0) と
なり、前期より原材料・仕入単価の上昇を予想している。

製品販売価格 (D I = 上昇ー低下)

前 期 比:「上昇」15.8% (前回 13.0%)、「低下」3.5% (前回 1.9%) という割合で
D I は 12.3 となり、1.2 ポイント上昇した。
前年同期比:「上昇」32.8% (前回 33.3%)、「低下」3.4% (前回 5.6%) という割合で
D I は 29.4 となり、1.7 ポイント上昇した。
次期 予想:「上昇」19.0%、「低下」10.3% という割合で D I は 8.7 (前回 7.6) と
なり、前期より製品販売価格の若干の上昇を予想している。

資金繰り (D I = 好転ー悪化)

前 期 比:「好転」3.5% (前回 5.5%)、「悪化」24.6% (前回 18.2%) という割合で
D I は▲ 21.1 となり、8.4 ポイント悪化した。
前年同期比:「好転」6.8% (前回 12.7%)、「悪化」27.1% (前回 23.6%) という割合で
D I は▲ 20.3 となり、9.4 ポイント悪化した。
次期 予想:「好転」3.5%、「悪化」17.5% という割合で D I は▲ 14.0 (前回▲ 20.7) と
なり、前期より資金繰りの好転を予想している。

所定外労働時間 (D I = 増加ー減少)

前 期 比:「増加」10.3% (前回 11.1%)、「減少」29.3% (前回 20.4%) という割合で
D I は▲ 19.0 となり、9.7 ポイント減少した。
前年同期比:「増加」8.5% (前回 9.1%)、「減少」28.8% (前回 25.5%) という割合で
D I は▲ 20.3 となり 3.9 ポイント減少した。
次期 予想:「増加」16.9%、「減少」22.0% という割合で D I は▲ 5.1 (前回▲ 9.1) となり
前期より労働時間の若干の増加を予想している。

収 益 率 (D I = 上昇ー低下)

前 期 比:「上昇」13.8% (前回 9.1%)、「低下」37.9% (前回 29.1%) という割合で
D I は▲ 24.1 となり、4.1 ポイント低下した。
前年同期比:「上昇」16.9% (前回 10.9%)、「低下」37.3% (前回 34.5%) という割合で
D I は▲ 20.4 となり、3.2 ポイント上昇した。
次期 予想:「上昇」10.2%、「低下」32.2% という割合で D I は▲ 22.0 (前回▲ 14.5) と
なり、前期より収益率の低下を予想している。

経営上の問題点（複数回答）

1位	原材料・仕入品単価の上昇	(→ 67.8%)
2位	受注の減少	(→ 54.2%)
3位	人材不足（技術者等質的なもの）	(→ 49.2%)
4位	労働力不足（量的なもの）	(→ 22.0%)
5位	同業他社との競争激化	(↑ 20.3%)
6位	技術力の不足	(↓ 11.9%)
7位	製品販売価格の低下	(↑ 10.2%)
7位	納期の短縮	(↓ 10.2%)
9位	為替相場の変動	(↑ 8.5%)
10位	人員過剰	(↑ 5.1%)
10位	金融難	(↓ 5.1%)
12位	取引先の海外シフト化	(↓ 0.0%)

※ 「↑」前回の順位から上昇 「→」前回の順位から変動なし
「↓」前回の順位から下降

業種別自社業況判断／食品

前 期 比：「好転」16.7%（前回 60.0%）、「悪化」16.7%（前回 0.0%）という割合で
D Iは0.0となり、60.0ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」42.9%（前回 60.0%）、「悪化」28.6%（前回 20.0%）という割合で
D Iは14.3となり、25.7ポイント悪化した。

次 期 予 想：「好転」28.6%、「悪化」0.0%という割合でD Iは28.6（前回▲ 20.0）となり
前期より大幅な好転を予想している。

業種別自社業況判断／金属機械

前 期 比：「好転」7.7%（前回 15.4%）、「悪化」61.5%（前回 15.4%）という割合で
D Iは▲ 53.8となり 53.8ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」15.4%（前回 0.0%）、「悪化」46.2%（前回 46.2%）という割合で
D Iは▲ 30.8となり、15.4ポイント好転した。

次 期 予 想：「好転」15.4%、「悪化」15.4%という割合でD Iは0.0（前回▲ 23.1）となり、
前期より好転を予想している。

業種別自社業況判断／一般機械

前 期 比：「好転」16.7%（前回 0.0%）、「悪化」41.7%（前回 30.8%）という割合で
D Iは▲ 25.0となり、5.8ポイント好転した。

前年同期比：「好転」16.7%（前回 0.0%）、「悪化」50.0%（前回 38.5%）という割合で
D Iは▲ 33.3となり、5.2ポイント好転した。

次 期 予 想：「好転」25.0%、「悪化」33.3%という割合でD Iは▲ 8.3（前回▲ 38.4）となり
前期より好転を予想している。

業種別自社業況判断／電気機械

前 期 比：「好転」10.0%（前回11.1%）、「悪化」50.0%（前回22.2%）という割合でDIは▲40.0となり、28.9ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」20.0%（前回11.1%）、「悪化」50.0%（前回55.6%）という割合でDIは▲30.0となり、14.5ポイント好転した。

次期予想：「好転」20.0%、「悪化」30.0%という割合でDIは▲10.0（前回0.0）となり前期より悪化を予想している。

業種別自社業況判断／木材家具

前 期 比：「好転」20.0%（前回16.7%）、「悪化」60.0%（前回33.3%）という割合でDIは▲40.0となり、23.4ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」20.0%（前回16.7%）、「悪化」40.0%（前回33.3%）という割合でDIは▲20.0となり、3.4ポイント悪化した。

次期予想：「好転」0.0%、「悪化」40.0%という割合でDIは▲40.0（前回0.0）となり、前期より大幅な悪化を予想している。

Q10 日銀松本支店が4月1日に発表した、企業短期経済観測調査(短観)によると、全産業の業況判断指数(DI)は、前回調査(12月)から2ポイント悪化のプラス1となり、4期ぶりの悪化となりました。非製造業(DI)は、約33年ぶりの改善でしたが、製造業は、自動車関連の生産の減少などが影響し、悪化。自社の景況感をどのように感じておられますか。

A 「好転している」5.1%、「今は無いが、今後好転が見込まれる」10.2%、「変わらない」40.7%、「今は無いが、今後悪化が見込まれる」18.6%、「悪化している」25.4%。

Q11 ①能登地震、台湾地震での企業活動への影響はありましたか。

A 「販売またはサービス提供に影響が生じた」3.4%、「取引先の拠点が被災した」6.8%、「影響はなかった」89.8%。

Q11 ※影響があった場合、どちらの影響を受けましたか。

A 「能登地震」11.9%、「影響なし」88.1%。

Q11 ②現時点でも能登地震、台湾地震の影響はありますか。

A 「ある」5.1%、「ない」89.8%、「無回答」5.1%。

Q12 その他経営上の問題についてご記入ください。

A 「個々の会社の問題の発端は、ほとんどが国の政策ミスによるものと思う。大きなワクでも大改革を願う。」、「工場移転に伴う生産調整や受注の減少で売り上げが落ちました。」、「電気、ガスの補助金が6月で終了すれば、製造経費の逼迫が危惧される。」、「中野市に新工場を建設中で建設後のマネジメント。」、「エネルギーコストの負荷増大、製造業には死活問題。」、「カーボンニュートラルに向けた環境活動への取り組み推進。売り手市場、人材流動化が進む中で社員採用と人材育成。」、「約束手形のサイト短縮により資金繰りが悪化する恐れあり。7月から大幅な材料値上げあり。大手は購買という産業構造があるため再三の価格転嫁は非常に難しい局面となる。」、「一年間の受注が波があり、資金繰りが厳しい時期がある。10年先の人材不足。」、「原材料の上昇。受注動向の不透明性。多品種生産による人員配置。」等。







